

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 9月 21日

事業所名 ゆいはうす

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6				静かに気持ちが落ち着ける場所、切り替えしやすい個室など環境を整えている。
	2	職員の配置数は適切である	6				配置基準以上の職員で対応している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	1	1		部屋やトイレはバリアフリーになっているので、入口にもスロープをつける。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	2			業務内容をPDCAシートに落とし込んだり、事前に集団活動の計画を立て、準備を計画的に行う。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	2			保護者等に対して事業所の評価を実施し、より良い支援に繋げている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	1			事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、課題や改善策を職員間で話し合い、ホームページ等で公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	2	1		今後、必要に応じて実施を検討する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6				勉強会や研修で学んだことを職員間で共有し、実践できるように努める。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6				保護者や児童の願いを聞きながら、えいぶるやサービス利用計画に沿った計画を立てている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5		1		えいぶるやサービス利用計画に沿った計画を立てて、支援・評価している。えいぶるは事業所に合わせた形式にしている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6				集団活動や個別活動について、職員間で話し合っ決めていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6				行った活動をデータで残し、過去の内容も参考にしながら新しい活動を考えている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	1			平日、長期休暇に合わせて活動内容を考えている。特に長期休暇では、平日の短い時間では出来ない特別感のある充実した内容を取り入れている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6				児童の状況や1人1人のベースに合わせて、個別支援計画の作成、見直しを行っている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6				児童の利用前に毎日話し合いを行い、当日の支援内容や役割について確認している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	1			児童の利用後や利用前に話し合いを行い、前日の振り返りをする事で次の支援に繋げている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6				日々の活動や支援について、児童ごとの支援目標に沿って記録している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6				定期的にモニタリング会議を行い、その内容を職員間でも共有し、個別支援計画の見直しを行っている。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	3	1	2		ガイドラインの周知や共有、見直しを徹底する。	

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	1		事前に職員間で児童の様子や状況を話し合い、話し合った内容を基に担当者会議、モニタリング会議を行っている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6			スクリレの登録を行い、情報を共有している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				現在、医療的ケア児の利用無し
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6			就学や他事業所の利用に向けて、児童の状況や様子について、情報を共有している。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している				現在まで、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する児童の利用無し
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2		発達支援についての研修や勉強会に積極的に参加している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		4	2	以前は児童館などで地域の子どもたちと交流があったが、現在はコロナ禍で交流が難しい状況。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	1	4	今後は地域の文化祭や子ども会との関わりを検討し、自治会と連携していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6			送迎時や連絡帳を通して児童の様子を丁寧に伝えあい、状況に応じて電話やLINEでも柔軟に対応している。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4		2	保護者からの要望があった際、柔軟に対応していく。	
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			利用契約時に、保護者の方へ丁寧な説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			モニタリング会議や送迎時などに保護者の方からの悩みについて聞き、気持ちに寄り添えるよう心がけている。状況に応じて電話相談やLINEでも柔軟に対応している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		1	5	今後、保護者からの意見を参考にしながら、開催を検討する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6			子どもや保護者からの相談や申入れについて、利用状況に合わせて、その都度、迅速かつ柔軟に対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			毎月、活動内容やお知らせを記載したおたよりを配布している。
	35	個人情報に十分注意している	5	1		保管場所を決め外部に持ち出さないよう十分に注意し、取り扱っていく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			児童や保護者の方の気持ちに寄り添いながら、工夫や配慮を行っている。
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	1	4	現在はコロナ禍で地域の方との関わりが少ないので、状況を見ながら交流を考えていく。長期休みなどを利用して、イベントを検討する。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	3		緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルについては職員間で共有できているので、ホームページに掲載して保護者の方にも周知してもらおう。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4		2	避難訓練の年間スケジュールを作成し、役割を決める。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6			虐待防止についての研修や勉強会に参加している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	1	1	現在、身体拘束が必要なパニック等のある児童は在籍していないが、契約時に保護者の方への説明を行っている。今後、個別支援計画にも掲載していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	1		現在、食物アレルギーを持つ児童の利用はないが、以前持っていたアレルギーについても保護者の方に確認し、職員間で情報を共有している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	1	1	ヒヤリハット事例集を作成、保管し、職員間で共有している。